

自然と共生したホッとなまち

川崎町町勢要覧 2012





川崎町長
小山修作

川崎町は「自然と共生したホッとなまち」をめざし、まちづくりに取り組んでおります。

ここには、雄大な自然が織りなす美しい景観、きれいな水からつくり出される安全な農林水産物、先人達が築き上げてきた伝統文化など、心が「ほっ」と和み、「ホット (Hot)」に情熱や熱意をもって取り組むことができる素晴らしい資源がたくさんあります。

町民の生活については、生き生きと暮らせるよう、医療・福祉・保健の更なる充実、子育て環境の支援、教育施設の充実を進めながら、質の高い人材を育成し、産業面においては、農林業を支えながら、新たな地場産業の発掘と企業誘致をすすめ、町民の働く場の確保と、所得の向上を図っていききたいと考えております。

また、東日本大震災により東北地方は、未曾有の被害に見舞われました。このような状況下において、川崎町は住民との協働によるまちづくりを進展させるため、知恵を出し、夢を語りつつ、「新しさと改革を求める姿勢」そして、「質素儉約」を旨とした行政改革を心がけて、暮らしやすい郷土を築き上げて参ります。

この要覧をとおり、より多くの方々に川崎町を知って頂くために、我が町の概況を紹介し、発刊の言葉といたします。

平成二十四年十月



古き風景をたずね、 先人の足跡を知る

The History of Kawasaki



▲昭和初期の農協通り周辺の風景（手前の門柱が昔の郵便局）

太古から人々は豊かな自然のもとで暮らし、
中世には奥州と羽州を結ぶ街道の宿場町として、
歴史の重要な役割を果たしてきた

古代

私たちのふるさとの起源は、数千年前さかのぼります。町内には縄文文化を伝える遺跡がたくさんあります。特に町内を流れる前川・北川・太郎川沿いに多数の生活痕跡が確認されています。水辺に近い小高い地に数家族単位で竪穴式住居を建て、狩猟・採取生活を行いながらこの地に定住していったものと思われま

す。やがて米作りが始まる弥生時代となり、共同作業などのため、集落の形成が行われるようになります。川崎町では比較的高地である為か、米作りの痕跡は遺跡からは見つからず、弥生文化がうかがえる小野・小沢・支倉などの比較的温暖な地域では、沢筋を利用し開田した小規模な稲作りが始まっていたものと思われ

ます。

【中世・江戸】

古代から中世にいたるまでの歴史は、詳しくはわかりませんが、山に囲まれた閉鎖地形のため、大和朝廷の影響はあまり及ばなかったものと考えられます。しかし四方峠や笹谷峠を越えた交流は古くからあり、古文書等にも笹谷峠にあったとされる有耶無耶の関の件が書き記されています。特に前川・今宿・小野は、旅人の宿場や荷物の集積所として早くから集落を形作っていたと思われま



▲かつての古街道の面影を今に伝える「六地藏」（笹谷峠）

す。支倉地区は、伊達政宗の命を受け一六一三年、遠くローマまで行った遣欧使節、支倉六右衛門常長のゆかりの地でもあります。円福寺には隠れキリシタンが崇拜したとされるマリア観音が納められていて、洗礼を受けた常長と従者の墓が残っています。

【明治・大正】

明治四年の廃藩置県により、この地は前川・今宿・小野・川内・本砂金の五つの村に分けられました。その後、明治二十二年の明治憲法の公布とともに市町村制が施行され、五つの村が一つになって川崎町が誕生しました。同じように支倉村と菅生村が合併し、富岡村となりました。川崎町は、広大な森林を有し、養蚕と炭焼きが盛んに行われ、特に木炭は、県内の一大主産地となっていました。稲作は水路の整備が進み、開田面積も広がったものの、度々凶作に見舞われ、農家の暮らしは大変だった記録が残っています。

川崎町の現況

東北随一の100万都市仙台に隣接し、恵まれた自然を有する川崎町は、都市生活者のオアシスとして発展を続けてきました。近年、高まりつつある環境への意識の高まりとともに、川崎町の良さが改めて見直され、まちは新たな発展の段階を迎えつつあります。



川崎特産のそば粉でそば作り体験



青根温泉雪あかり (青根洋館)

人口

川崎町の人口は、昭和三十年の一万三五〇八人をピークに釜房ダム水没者の町外移転により一時減少しその後はほぼ横ばいを推移していましたが、近年の少子高齢化社会の到来により人口も減少傾向にあります。

生活環境

すべての町民が、快適で豊かに暮らすことができるよう、都市インフラの整備に取り組んでいます。特に、まちな環境保全に寄与する下水道の整備や、高齢化に伴うお年寄りの交通手段の確保に欠かせない町民バス路線の充実などに取り組んでいます。

産業・商工業

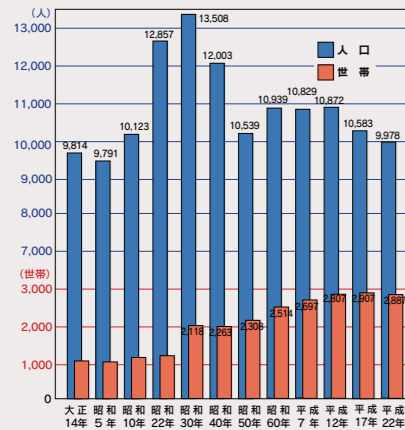
まちな基幹産業である農業を主体とした第一次産業は、年々縮小傾向にあり、第二次・三次産業の比率が高まりを見せています。近年、花卉や園芸農業、低農薬野菜など、新しい付加価値を有する農業の振興にも力を入れ、パランスのとれた川崎町ならではの産業育成に取り組んでいます。

教育

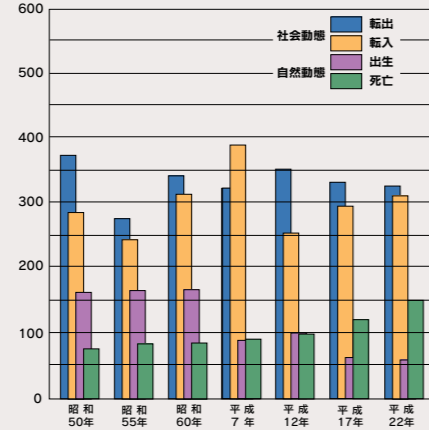
少子化の進展に伴い、児童・生徒数は減少傾向にあります。次代を担う子供たちの育成は川崎町発展の要との考えに立ち、より一層の教育環境の充実に努めています。

平成24年8月31日 人口9,829人 世帯数3,269世帯

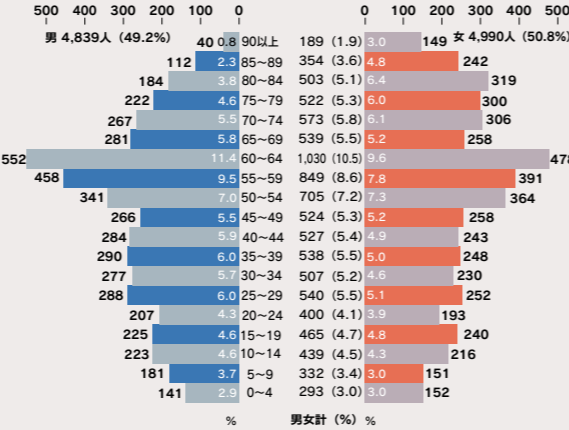
人口・世帯数の推移 (国勢調査)



住民基本台帳による人口動態



年齢別人口構成



より豊かなくらしを支えるゆとりある環境づくり 生活環境

道路延長

平成23年4月1日現在

国道	56.4km
県道	35.6km
町道	194.9km

舗装率80.7%

施設の状況

平成24年3月31日現在

郵便局	2
簡易郵便局	3
公民館	1
公民館分館	8
公園	5
公民館分館	17

消防

平成24年4月1日現在

分団数	6分団
消防団員	257名
現有装備	ポンプ車 3台
	小型動力ポンプ積載車 25台
消防水機	消火栓 121ヶ所
	防火水槽 102ヶ所

大河原消防署川崎出張所 職員数 15名

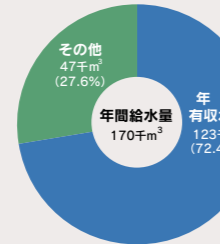
ポンプ車1台(1)、指揮車(1)、救急車(1)

川崎警察官駐在所 3名

青根警察官駐在所 1名

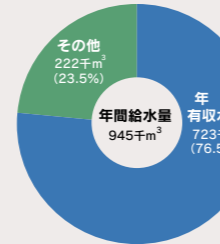
簡易水道事業

施設数/5 給水人口/1,027人
料金収入/44,480千円
1日最大給水量/811m³



上水道事業

施設数/3 給水人口/8,120人
料金収入/184,636千円
1日最大給水量/3,175m³



下水道

平成24年3月31日現在

管渠延長	597.0ha	整備率	76.9%
81km	597.0ha	428.5ha	79.1%

公共下水道区域内	人口	区域外人口	浄化槽設置人口	水洗化率3			
6,479	65.80%	5,996	92.50%	3,366	42	1,746	53.10%

所得 (町内総生産)

単位 (百万円)

区分	平成20年度	平成21年度
第一次産業	1,373	1,358
農業	1,173	1,179
林業	200	179
水産業	-	-
第二次産業	6,605	7,960
鉱業	18	4
建設業	2,069	2,255
製造業	4,518	5,701
第三次産業	20,462	20,315
卸売小売業	1,277	1,221
金融、保険、不動産業	4,531	4,512
運輸、通信業	2,338	2,373
電気、ガス、水道業	880	1,112
サービス業	6,631	6,574
その他 (関税含む)	4,805	4,523
帰属利子等 (控除)	622	635
合計	27,818	28,998

平成21年度市町村民経済計算 (平成24年)

町営住宅

平成24年3月31日現在

木造第1種住宅	23	青根厚生第2種住宅	6
木造第2種住宅	44	簡易耐火住宅第2種	8
簡易耐火住宅第1種 (アパート)	58	合計	139

町民みんなが健康で明るい毎日を 福祉

国民年金

平成23年度

第一号被保険者	1,639人
任意加入者被保険者	11人
第二号被保険者	445人
合計	2,095人

平成23年度

給付額	1,880,454千円
受給者	2,948人

(老齢基礎年金、障害年金 其他年金含む)

国民健康保険

平成23年度

世帯数	世帯
被保険者数	一般 3,011人
	退職者 205人
件数	一般 38,245人
	退職者 3,455人
医療費	費用額
	一般 519,558千円
	退職者 37,952千円

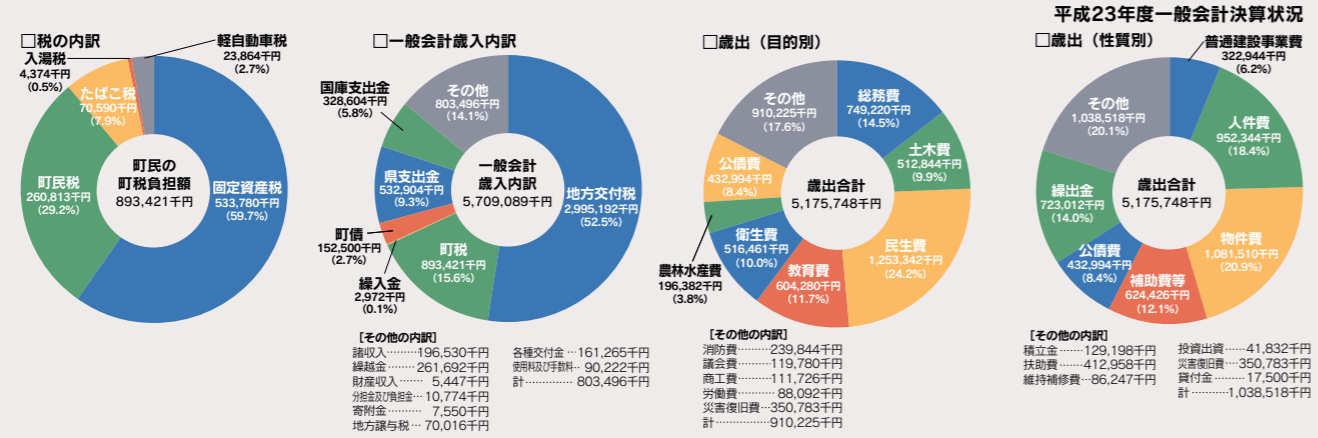
公立病院

平成23年度

病床数	医師数	理学療法士	薬剤師	看護師	検査技師等	臨時・委託等	
国民健康保険 川崎病院	60床	5	1	2	28	4	22



▲川崎町健康福祉センター「やすらぎの郷」は、平成7年、町民の健康増進と福祉の向上を目的としてオープンした温泉施設で、大浴場のほか、コミュニティホールや日常生活訓練室などが完備されている。

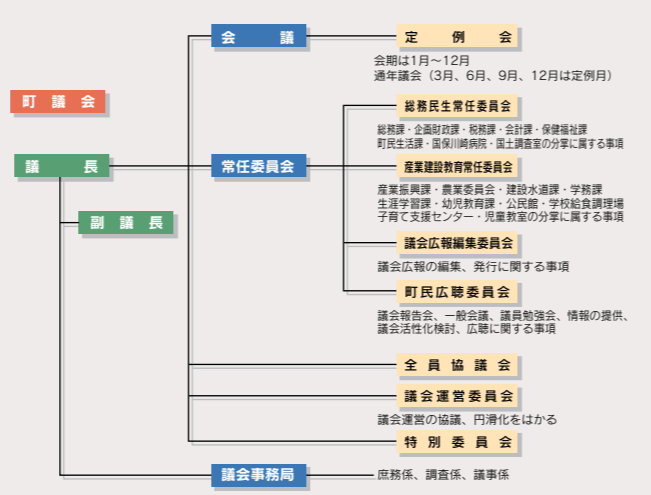


平成23年度各会計決算状況 (千円)

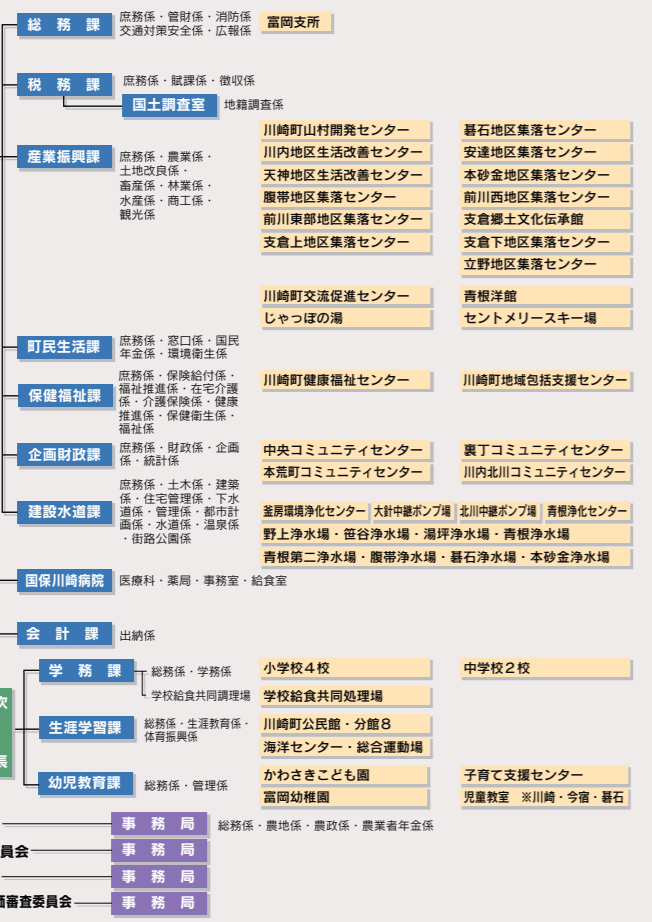
会計区分	歳入総額	歳出総額
一般会計	5,709,089	5,175,748
国民健康保険	1,112,585	1,112,585
後期高齢者医療保険	66,933	66,932
介護保険	907,271	900,657
簡易水道事業	54,010	45,960
温泉事業	13,539	13,516
公共下水道事業	557,585	546,885
川崎町病院事業	786,300	792,214
川崎町上水道事業	227,427	223,682
合計	9,434,739	8,878,179

行政

議会



▲花いっぱい運動 ボランティア作業

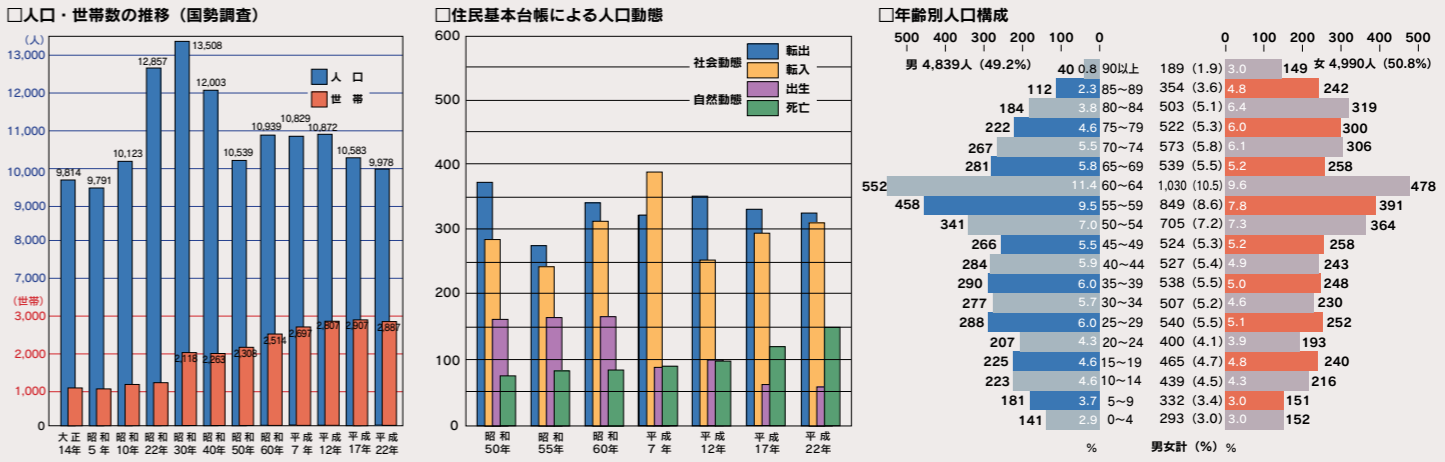


【人口】
川崎町の人口は、昭和三十年の一万三五〇八人をピークに釜房ダム没後の町外移転により一時減少しその後はほぼ横ばいを推移していましたが、近年の少子高齢化社会の到来により人口も減少傾向にあります。

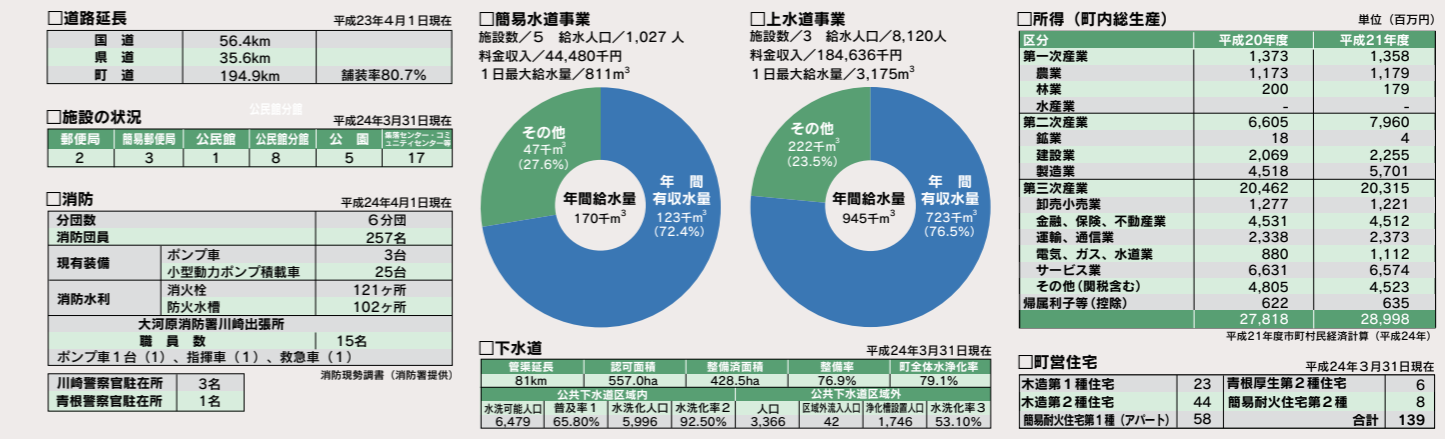
【生活環境】
すべての町民が、快適で豊かに暮らすことができるよう、都市インフラの整備に取り組んでいます。特に、まちの環境保全に寄与する下水道の整備や、高齢化に伴うお年寄りの交通手段の確保に欠かせない町民バス路線の充実などに取り組んでいます。

【産業・商工業】
まちの基幹産業である農業を主体とした第一次産業は、年々縮小傾向にあり、第二次・三次産業の比率が高まりを見せています。近年、花卉や園芸農業、低農薬野菜など、新しい付加価値を有する農業の振興にも力を入れ、パランスのとれた川崎町ならではの産業育成に取り組んでいます。

【教育】
少子化の進展に伴い、児童・生徒数は減少傾向にあります。次代を担う子供たちの育成は川崎町発展の要との考えに立ち、より一層の教育環境の充実に努めています。



より豊かな暮らしを支えるゆとりある環境づくり **生活環境**



町民みんなが健康で明るい毎日を **福祉**

国民年金 (平成23年度)

第一号被保険者	1,639人
任意加入被保険者	11人
第三号被保険者	445人
合計	2,095人

国民健康保険 (平成23年度)

世帯数	世帯
被保険者数	一般 3,011人
件数	退職者 205人
合計	一般 38,245人
退職者	3,455人
医療費	一般 519,558千円
費用額	退職者 37,952千円

公立病院 (平成23年度)

病院	病床数	医師数	理学療法士	薬剤師	看護師	検査技師	臨時・委託等
国民健康保険川崎病院	60床	5	1	2	28	4	22

▲川崎町健康福祉センター「やすらぎの郷」は、平成7年、町民の健康増進と福祉の向上を目的としてオープンした温泉施設で、大浴場のほか、コミュニティホールや日常生活訓練室などが完備されている。

2013年は、慶長遣欧使節団 出帆400周年!!

●川崎町民憲章（昭和55年10月1日制定）

1. 健康に心がけ、清潔でうつくしいまちをつくります。
1. 互いにきまりを守り、明るく住みよいまちをつくります。
1. 親愛の情をもち、みんなで助け合うまちをつくります。
1. 生産にはげみ、ゆたかなまちをつくります。
1. 教養を高め、すぐれた文化のまちをつくります。

●町の獣（昭和55年10月1日制定）

カモシカ



●町の鳥（昭和55年10月1日制定）

キジ



●町の木（昭和55年10月1日制定）

ドウダン



●町の花（昭和55年10月1日制定）

シャクナゲ



●町章（昭和39年7月1日制定）

この町章は、川崎の川を三重丸で表し、円は町民円満と団結の強さを示し、町の中心部を流れる北川、前川、太郎川の三大河川を象徴したものである。



宮城県川崎町

〒989-1592

宮城県柴田郡川崎町大字前川字裏丁175番地1

TEL 0224-84-2111（代表）

川崎にまつわる偉人

【支倉常長】

支倉常長は、川崎町の支倉地区出身で、この地区と大変深い関係をもった町を代表する偉人です。1613年慶長遣欧使節として、仙台藩主伊達政宗の命を受け、太平洋・大西洋を越え、遠くローマ法王に謁見し、奥州（東北地方）との交易を求めた使節です。常長はその時に洗礼を受け、キリスト教信者となりますが、目的が達成されないまま7年後に日本に帰ってきます。そのころ日本では、徳川幕府のキリスト教の弾圧が強まり、彼の偉業は隠れたものとなってしまいました。

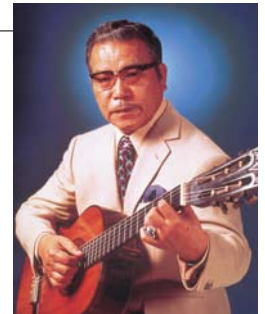


キリスト信者である常長は、その後ひっそりとこの支倉の地で暮らしただけのものと思えます。

支倉家の菩提寺である円福寺には、本尊のマリア観音が祀られていて、常長とその従者の墓もあります。円福寺の近くには支倉家の居城である「上楯城」城跡も残っていて、当時の面影を伝えています。

【古賀政男】

日本音楽会の巨匠「古賀政男」は、明治大学在学中に友人と旅し、川崎町の青根温泉に宿泊しています。そのころ古賀政男は、失恋と音楽に行き詰まり、生きる気力を無くしていました。無気力と脱力感でもうろうとするなか、青根の山中をさまよひ、自分の将来を悲観して自殺未遂を図ります。このことがきっかけとなり、古賀メロディーの代表作ともいえる「影を慕いて」が誕生することとなります。



青根の自然の森公園には、「影を慕いて」の歌碑・詩碑が建立され、また木立の中には旧古賀邸の庭にあった庭石や、置物が配置されていて、古賀メロディー愛好者の足を運ばせています。

川崎町景観百選

【象が沢噴水】

象が沢噴水は、国道286号入口から雁戸山（笹谷）に登る笹雁新道の途中にあります。約50分登ったところに、幅7~8mの山肌の裂け目から勢よく吹き出した湧水は、あたかも象の鼻から噴水したかのように白いしぶきを上げ、壮大で優雅な風景をかもし出しています。



川崎町キャラクター

【チョコえもん】

日本人で初めてチョコを食べた支倉常長公の意志を受け継ぐ者

【サンファン】

支倉常長公を乗せて太平洋～大西洋を渡った伝説の船の末裔

【川崎べこ太郎】

幻のブランド牛「川崎牛」の若き伝承者

【そば実ちゃん】

川崎町特産のそば畑を見守る妖精

